平成２７年１１月 ３０日

平成２７年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２７年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成27年4月21日(火)

3　調査対象

中学校　第２学年　　(国語，社会，数学，理科，英語，質問紙)

4　本校の実施状況

第２学年　国語　８９人　社会　９０人　数学　８９人

理科　９１人　英語　８９人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

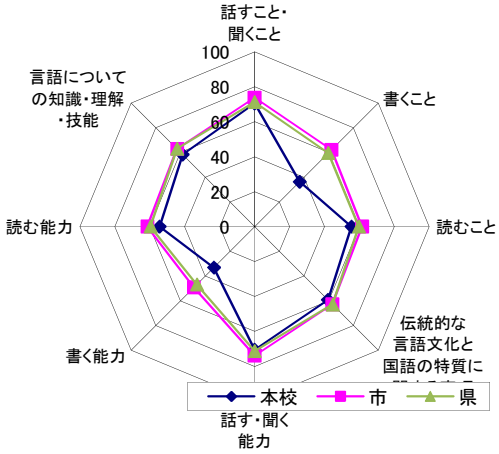
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	70.5	73.8	71.3
	書くこと	36.4	62.2	59.6
	読むこと	55.4	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.3	62.9	63.1
観点	話す･聞く能力	70.5	73.8	71.3
	書く能力	33.1	49.2	46.8
	読む能力	54.4	61.5	59.6
	言語についての知識･理解･技能	58.3	62.9	62.9



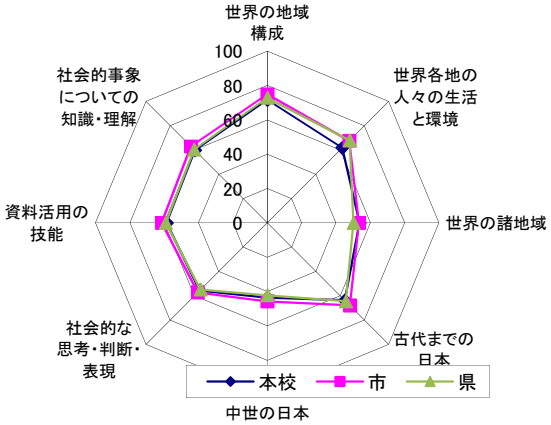
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者の話し合いの進め方の工夫」では2.0ポイント、「出された意見をよりよくするための意見を適切に述べる」については1.0ポイント県よりも高い。 ●「聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫」で、県を5.6ポイント下回った。	･情報や思いを伝えるために必要な『他者意識』をもたせることが出来るよう、言語での発表の機会を増やし、「聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫」を出来るようにさせたい。 また、手本となるような発表の方法について視聴覚教材などを聞かせ学ぶ機会を充実させたい。
書くこと	●表現することに消極的な生徒が多く、入学当初から作文を書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。さらに、「話すこと･聞くこと」の課題でもある『他者意識』が低いため、主観的な文章になってしまい、「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」が苦手で、県を大幅に下回ってしまった。	･書く機会を充実させ、短い課題作文を書かせることで、考えて「書くこと」に慣れさせる。また、伝える相手を想定した作文などを書く機会を設定し『他者意識』を醸成させたい。 また、原稿用紙の使い方が身に付いていない生徒がいるので、具体的な例文をもとに書き方の確認を行い、約束事などを理解させる。
読むこと	○【文学作品】の「登場人物の心情の読み取り」は県を4.8ポイント上回っており、主観的に内容を読み取る能力は高い。 ●【説明文】の「文章の展開に即した内容の捉え」や、【文学作品】の「表現の特徴」など客観的に文章を読み解くことなどは苦手で、県を大きく下回っている。	･【文学作品】では、登場人物の心情や行動に注意して読むことは出来ているので、ワークシートなどを使って「展開」「表現」などに注目して読み取ることが出来るようにさせたい。 ･【説明文】では、「段落構成」に注意しながら筆者の主張を捉えたり、要旨をまとめさせたりしていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「漢字の読み」「歴史的な仮名遣いについての理解」は県を上回っている。 ●「漢字の書き」「単語の理解（文法）」「行書の特徴の理解」などで県を下回っている。	･「文法」に苦手意識を持つ生徒が多いが、繰り返し根気強く説明し、問題を解かせる中で理解させていきたい。 ･「行書の特徴」については、書写指導の実技の中で発見させ、身に付けさせていきたい。 ･「漢字の書き」については、「既習の漢字は書く」という意識をもたせるよう、指導していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	71.7	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	61.8	67.5	67.8
	世界の諸地域	53.7	53.4	50.2
	古代までの日本	63.8	68.0	64.6
	中世の日本	43.5	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	55.7	57.3	55.0
	資料活用の技能	58.7	61.4	59.1
	社会的事象についての知識・理解	59.8	62.9	60.3



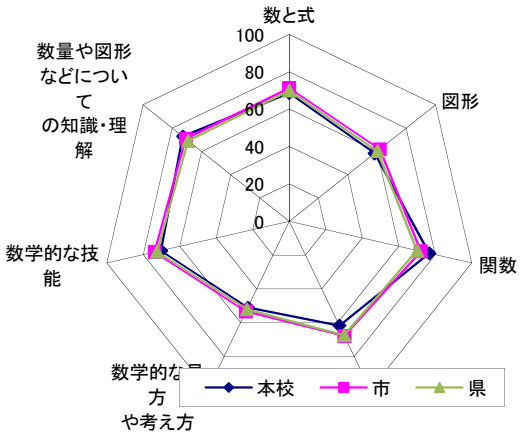
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	●正答率は、市・県より約3ポイント低い数値である。 特に、様々な世界地図の活用が理解不十分である。 ○海洋、地域区分、赤道、緯度・経度の部分についての理解は十分である。	・教科書の重要語句やワークブック、資料集を利用し、知識の定着を図り、基礎的・基本的な事項の理解度を向上させる。 ・地図帳を活用し，様々な国の名称や位置，形などを捉えたり、国名の由来や国旗，国の形などに関する疑問点について調べることで、様々な世界地図を活用する技術を身につけさせる。
世界各地の人々の生活と環境	●正答率は、市・県より約6ポイント低い数値である。 世界の主食の分布への理解が18ポイント下回っており、再度復習が必要である。 ○雨温図から世界の人々の生活を考察することは5%上回っていた。読み取る力はまずまずである。	・これまで用いた資料から，世界各地の人々の生活の様子を自然的環境と結びつけて考察させるとともに、生活の変化を社会的環境からまとめさせることで知識の定着を図る。
世界の諸地域	○ヨーロッパ州の国々と名称は16ポイント、偏西風がヨーロッパ州の気候にもたらす影響への理解は10ポイント上回っている。全体的に市・県平均であった。 ●EUの特色への理解が不十分であった。	・EUのしくみ、単一通貨ユーロの導入とその意義，加盟国間で可能になること，それにともなう人々の生活の変化、拡大を続けるEU加盟国間で発生している問題を、資料から読み取ることにより重点を置いて、EUの特色への理解を深めさせる。
古代までの日本	●市平均と比べて5ポイント下回っている。仏教の発生と伝播への理解が低い。 ○稲作が始まる以前の人々の生活の様子、邪馬台国の理解は市・県平均であり、大和政権の支配の広がりについて資料をもとに判断することに関しては、6ポイント上回っている。	・歴史的分野においても、教科書の重要語句やワークブックを利用し知識の定着を図り基礎的基本的事項の定着を図る。 ・仏教・キリスト教・イスラム教がおこった地域と世界の古代文明がおこった地域との関連を図にまとめ、中国文明が日本に及ぼした影響について意見を発表し合うことで、仏教の発生と伝播への理解を深めさせる。
中世の日本	○市平均と比較すると、2ポイント下回っているが県と比較すると1ポイント上回っている。 ○中世の経済活動に関しては、12ポイント上回っており、十分に理解されている。	・古代と異なる特色を考察させ，国内が幕府と朝廷の二重支配を受けていたことなどを自分の言葉で表現させることで歴史用語の理解だけでなく，歴史を大きな流れで捉えさせることでより思考を深化させてる。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.7	71.2	69.8
	図形	58.4	61.9	60.2
	関数	76.8	72.1	70.1
	資料の活用	61.9	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	51.1	53.4	52.1
	数学的な技能	70.3	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	70.8	69.1



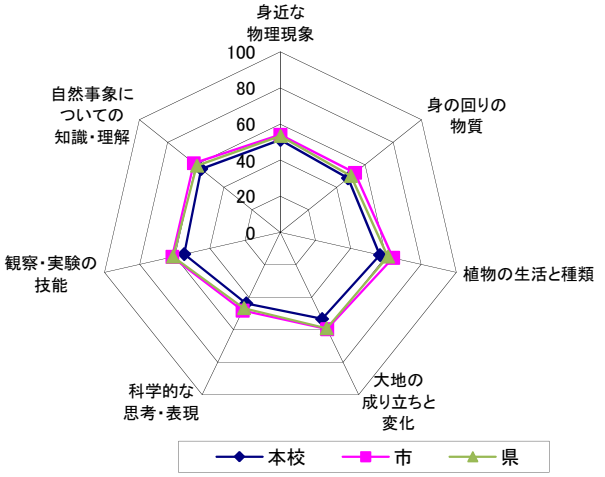
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の四則計算、 文字式の計算、1次方程式などの技能の観点は定着している。 ●同類項をまとめることや、小数を含む計算はやや下回っている。	小学校での既習内容ではあるが、小数の意味を理解していないことが考えられる。小学校の復習の時間を設けたり、繰り返し計算の演習をすることで小数の意味を理解させる。
図形	○基本的な作図、空間図形の把握や表面積・体積を求めることは定着している。 ●平面図形の対象移動・回転移動、球の体積の公式について定着度が低い。	図形の移動については、具体物を活用し触れることで図形の移動を体感させる。 球の体積は表面積の公式と取り違えがないように、反復し身に付ける。
関数	○比例・反比例ともによく理解しており県・市よりも上回っている。 ●式からグラフをかくことや文章問題に若干の苦手意識をもっている。	関数の表、式、グラフは表現方法の違いであり、本質的なものは同じであることをしっかり理解させ、演習を通してその場に適した表現の仕方を身に付けさせる。
資料の活用	○用語を理解し、資料から指示された値を読み取ることができる。 ●資料の傾向を読み取り、数学的な表現で説明することができていない。	資料の活用に限らず、自分の考えを表現したり、説明することが得意でない生徒が多く見られる。授業毎に発表する機会や、考えを話し合う機会を増やしていく。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	51.3	54.0	53.3
	身の回りの物質	48.0	52.9	50.0
	植物の生活と種類	56.6	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	53.3	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	43.8	48.2	46.7
	観察・実験の技能	54.7	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	56.2	61.4	59.2



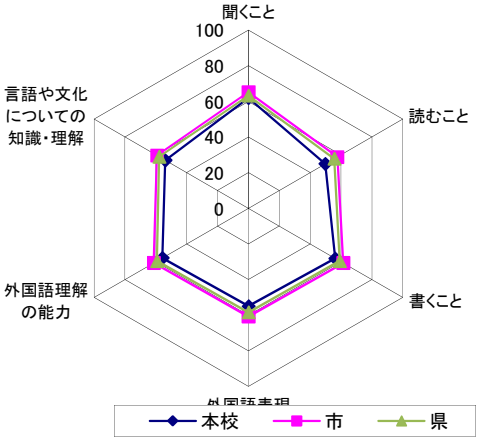
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○光の反射の規則性から、鏡に映る範囲が鏡と物体の距離に関係しないことが理解できている。 ●弦の長さと音の高低や振動数の関係について、また、おもりをつるしたときのばねの伸びをグラフから求めることが不十分である。	・音の大小・高低と弦の長さの関係や、振動数との関係を視覚教材を利用して理解させる。また、実験結果を予想させ、考える時間を確保していき、基礎的な知識を高めていく。
身の回りの物質	○濃度の計算や、濃度を変化させる方法や状態変化での体積と質量の関係については、県よりも5ポイン以上、上回っている。 ●密度を求めてから、物質の特定や水への浮き沈みに関しては県よりも10ポイント以上下回っている。	・濃度や密度の計算は理解できているので、そのデータをもとに物質の特定のしかたや、粒子のモデルを活用しての説明を多くしていく。また、基本的な計算から、発展的な計算問題を増やして学習させる。
植物の生活と種類	○基本的な植物のつくり（葉・茎・根）の関係性が理解できている。 ●植物の蒸散量を調べる実験方法で、水面に油を垂らす理由や植物の各部分から蒸散量を比べる方法を推測することや、顕微鏡の正しい使い方が不十分である。	・器具の使用方法は、実験のたびに説明・発問を繰り返し、理解させる。 ・観察・実験を行う際、注意点を考えさせ、どのように行えば安全に活動できるかを考えさえる時間を確保し発表させる。
大地の成り立ちと変化	○深成岩のつくりとでき方についてや、地震の揺れの名称については理解している。 ●地震の2つの波の伝わり方や、地震計の記録から震源地を指摘し説明することが不十分である。また、堆積岩の丸みを帯びている理由が理解できていない。	・教科書の重要語句に関しては理解できているが、図や表から読み取る力が弱いので、模型や視覚教材を活用して理解させる。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.9	65.2	63.2
	読むこと	49.9	57.6	55.6
	書くこと	56.3	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	54.9	60.7	58.4
	外国語理解の能力	55.7	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	53.9	59.2	57.8



★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○他の領域に比べ、市の正答率との差が小さい。対話文を聞いて質問に答える問題のポイントは、前年度と比べて高くなっており、県の平均を7．2ポイント上回る結果となった。 ●疑問詞を用いた疑問文に対する応答の仕方を身に付けていない生徒が多い。	・生徒たちは、領域の中では「聞くこと」を得意としている。今後も教科書の本文導入を英語で行ったり、ALTとの授業を充実させたり、単元ごとのリスニングテストを実施し、英語を聞く機会を作っていく。また、まとまりのある英文を聞き取る力を身に付けるために、聞き取りのポイントを示してメモしながら聞く練習を継続させる。
読むこと	●正答率は市の平均を7.7ポイント下回っている。特に、まとまりのある英文を読んで、話の内容をつかむことや、問題に問われていることについて正確に答えとなる部分を見つけ出す力が不足している。 ○対話文の中で、疑問詞を用いた現在進行形の疑問文については十分理解されている。	・長文読解では大まかな文の流れをつかみ、段落ごとや文章全体で内容を簡単にまとめる力を身に付ける学習活動を設ける。また、文章中に出てくる指示語が何を指しているのかを常に考えさせるようにし、必要な情報を文章中から探し出す力を身に付ける。
書くこと	●正答率は市の平均を5.1ポイント下回っている。相手に住んでいるところや好きな動物を尋ねる表現において正確さを欠いている。 ○テーマに基づく英作文では、自分の得意なことや好きなことなど、自分が相手に伝えたいことをよく表すことができた。	・文法や語彙等をさらに定着させるために、単語テストや単元テスト等を通してさらに練習量を確保する。また英作文においては、生徒に興味を持たせるような題材を設定し、発表の場を多く設けて学び合いながら英語の表現力を高めさせる。

宇都宮市立上河内中学校 第２学年生徒質問紙調査

調査結果

※ 「学校教育スタンダード」の到達目標と直接的・間接的に関連のあるもの及び宇都宮市平均や県平均と差が顕著なものを取り上げた。

No.	主な質問と回答内容	本校	宇都宮市	市との差	県平均	県との差
1	家で学校の授業の予習をしている	63.3	50.5	12.8	47.5	15.8
2	家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている	58.9	60.3	−1.4	55.9	3.0
3	家で学校の宿題をしている	83.3	93.5	−10.2	93.3	−10.0
4	学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、１日当たりの勉強時間 ※2時間以上	28.9	31.5	−2.6	34.9	−6.0
5	土・日など学校が休みの日、１日当たりの勉強時間 ※2時間以上	32.2	40.6	−8.4	43.4	−11.2
6	普段（月～金曜日）、１日当たりのテレビゲームをする時間 ※2時間以上	41.1	29.9	11.2	30.4	10.7
7	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある	85.6	78.0	7.6	75.6	10.0
8	先生は学習のことについてほめてくれる	67.8	71.7	−3.9	69.4	−1.6
9	毎日、朝食を食べている	88.9	94.4	−5.5	93.5	−4.6
10	早寝、早起きを心がけている	62.2	70.3	−8.1	67.3	−5.1
11	普段（月～金曜日）、１日当たりの睡眠時間 ※7時間以上	75.5	67.4	8.1	66.6	8.9
12	自分には、よいところがあると思う	70.0	76.1	−6.1	74.2	−4.2
13	自分の行動や発言に自信をもっている	51.1	57.3	−6.2	53.7	−2.6
14	誰に対しても、思いやりの心をもって接している	83.3	87.0	−3.7	87.1	−3.8
15	家の人と学校でのできごとについて話をしている	74.4	79.4	−5.0	78.2	−3.8
16	自分は家族の大切な一員だと思う	84.4	89.2	−4.8	87.5	−3.1
17	家でのきまりや約束を守っている	78.9	85.6	−6.7	84.3	−5.4
18	家の人と学習について話をしている	72.2	80.8	−8.6	73.4	−1.2
19	人と話すことは楽しい	95.6	92.5	3.1	92.1	3.5

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○No.1「家で授業の予習をしている」と回答した生徒の割合は、県や市の平均と比べて高い。No.2「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と回答した生徒と重なり、この生徒達は学習にしっかり向き合っていると思われる。

●No.3「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合が低い。昨年の定着度調査のデータでは市平均よりも高かったため、宿題に対する意欲が減退している姿が見られる。No.4「学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、１日当たりの勉強時間」No.5「土・日など学校が休みの日、１日当たりの勉強時間」も、県や市の平均と比べて低い。

○●No.6「普段（月～金曜日）、１日当たりのテレビゲームをする時間」では、県や市の平均と比べて、ほとんどゲームをしない生徒が多い半面、多くの時間をゲームにあててしまっている生徒も多く両極端な結果が出ている。

○No.7「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した生徒は、県や市の平均と比べて高い。No.8「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した生徒の割合が、やや低くでている。

再度、宿題の目的と、反復学習の大切さ、家庭での自主学習の必要性、家庭での時間の使い方や生活の仕方を、学年集会や学活、学年・学級便りを通して指導していきたい。また、生活面だけでなく学習面に対しても、褒める指導をしていく。 さらに、各教科間で連携を図って宿題の量が適正になるよう配慮したり、家庭学習の計画を立てる活動を取り入れたりするなど、生徒が自主的に家庭学習に取り組むことができる学習環境づくりに努めたい。

●No.9「毎朝、朝食を食べている」No.10「早寝、早起きを心がけている」と回答した生徒の割合は市平均と比較して低い。○No.11「普段（月～金曜日）、１日当たりの睡眠時間※7時間以上」と回答した生徒の割合は県平均と比較して高い。

これらのことから、ゆっくり寝ていて朝食を食べていないことが予想される。朝食の大切さを理解させ、家庭での時間の使い方や家庭学習などと関連付けて、保護者の協力得ていく。

●生活面での質問でNo.12「自分には、よいところがあると思う」No.13「自分の行動や発言に自信をもっている」No.14「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」No.15「家の人と学校でのできごとについて話をしている」No.16「自分は家族の大切な一員だと思う 」No.17「家でのきまりや約束を守っている」No.18「家の人と学習について話をしている」と回答した生徒の割合が県や市の平均と比較して、軒並み低い。

昨年の定着度調査でも、同様な傾向であった。この中でNo.19「人と話すことは楽しい 」と回答した生徒の割合は県や市の平均よりも高く表れている。厳しめの回答をしている面もあると思うので、スタンダードダイヤリーや日常の会話を通して、現在の自分の力を正しく評価させ、前向きな気持ちをもたせていきたい。